

議会 だより



弥美神社例大祭

5月1日が例大祭の日で、午前
は「弊押し」の激しいもみ合
い、夕方には優雅な「王の舞」
と威勢のよい「獅子舞」が奉
納されます。(祭シリーズ)

6月定例会	2~3
常任委員会の動き	4~5
一般質問	6~9
現地視察	10
各委員会・組合議会報告・全員協議会	11~14

福井国体に向けた取り組み	15
知っ得議会シリーズ⑨	15
第31回 美浜町民レガッタ	16
お詫び	16
編集後記	16

美浜町エネルギービジョン事業に補正 6月定例会

6月定例会が6日から20日までの15日間の会期で開催されました。上程議案は一般会計・特別会計、企業会計の補正予算を含め12件(追加1件)でした。

国のエネルギー基本計画への意見書提出の陳情は総務文教常任委員会で審議され、本議会で2名の反対討論もありましたが、全て承認可決されました。

6月定例会の初日は、本会議で2名の会議録署名議員の議長指名が行われ、本会議で、会期の決定、議案の上程が行われました。町長の提案理由の前には、美浜・五木ひろしマラソンのお礼と報告、更に目前に迫った福井元氣しあわせ国体と障害者スポーツ大会等も含め最近の町の動きと取組状況の説明がありました。引き続き議案の説明、質疑、議案の委員会付託が行われました。

全員協議会では、原子力発電所特別委員会の活動報告の後、理事者側

から議案の詳細説明を受け質疑応答が行われました。2日目は4名が一般質問を行ない、理事者の答弁を求めました。(6〜9項掲載)

一般会計の主な補正予算事業は、次ページ(3項)のとおりで、下記に関連写真を掲載しました。

総務文教・産業厚生常任委員会の付託案件の審議も行われ、会期中に行われた町内現地視察は、新庄地区を回りました。最終日の20日は委員長報告、討論、議案の採決が行われ本会議を終了しました。(辻井記)



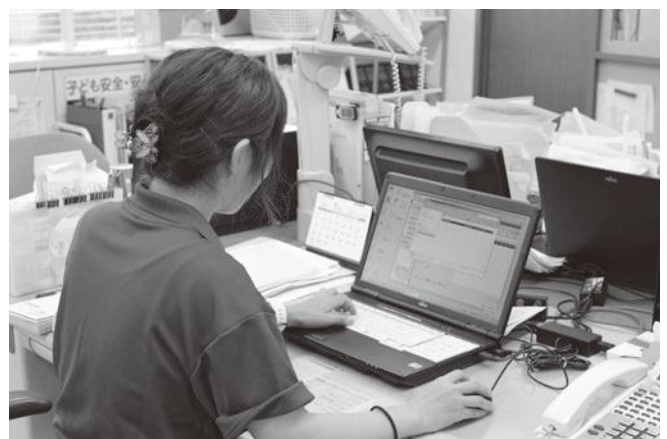
美浜町エネルギービジョンの骨格が始動



太陽光パネルが設置される産業団地調整地



日向の定置網



通信回線の高速化を図る

平成 30 年度 一般会計 6 月補正予算概要

30 年度 一般会計補正予算(6 月) 5 億 4,350 万円を可決 補正後予算総額 80 億 7,926 万円

歳出予算の内訳(主要事項) ●:新規事業

(単位:万円)

款	補正額	主要事項	金額	事業概要等
総務費	9,066	● 公共用地等太陽光発電設備整備事業 (若狭美浜インター産業団地)	1,613	美浜町エネルギービジョン事業化計画に基づく企業誘致促進を目的とした太陽光発電設備整備工事実施設計業務委託料
		● 地域主導型再生可能エネルギー利用促進調査事業	3,227	美浜町エネルギービジョン事業化計画に基づく地域主導型再生可能エネルギー利用促進調査業務委託等
		● 公共用地等太陽光発電設備整備事業 (公共施設)	2,195	美浜町エネルギービジョン事業化計画に基づく公共施設太陽光発電設備整備工事実施設計業務委託料
農林水産業費	26,883	園芸産地総合支援事業	811	園芸作物の生産と販路の拡大を図るための支援事業補助金(JA 敦賀美方)
		● バイオマス資源利用可能性調査事業	1,774	美浜町エネルギービジョン事業化計画に基づくバイオマスの利活用可能性調査業務委託料、第三者検討委員会関係経費等
		● 定置漁業・底曳網漁業振興対策事業	6,667	漁業経営体の経営基盤強化と漁獲量増加に向けた補助金(日向定置網、丹生定置網改修)
商工費	980	地域商業活性化事業	80	観光客等の消費喚起と地域消費拡大に向けて電子マネー等キャッシュレス決済を導入する小規模な商店や飲食店等への補助金
土木費	13,191	● 町道郷市線道路改良事業	444	町道郷市線に歩道を整備し歩行者の安全安心を確保するための用地購入費や工事費等
		美浜町スマートコンパクトシティ魅力創造拠点化事業	791	美浜町エネルギービジョン事業化計画に基づく地域づくり拠点化施設における再生可能エネルギー導入可能性調査業務委託料
		地籍調査事業	753	境界紛争の防止、財産の保護、課税の適正化等を目的とした地籍調査業務委託料(佐柿地区)
		町営住宅改修事業	3,306	美浜町公営住宅等長寿命化計画に基づき老朽化が進んだ町営住宅に対し大規模改修を実施する工事費等
教育費	1,395	学校 ICT 環境整備事業	425	教務用と校務システム用のパソコンを導入及び通信回線の高速化並びにサーバをクラウド化するためのリース料等
		眠育・不登校対策事業	101	すくすく美浜っ子支援室における不登校対策の強化、眠育の推進、不登校児童学習支援システム整備費等
		● 校務支援システム整備事業	69	県が整備する高いセキュリティを持つ統合型校務支援システムを各学校で利用できるようにするためのネットワーク機器等のリース料等

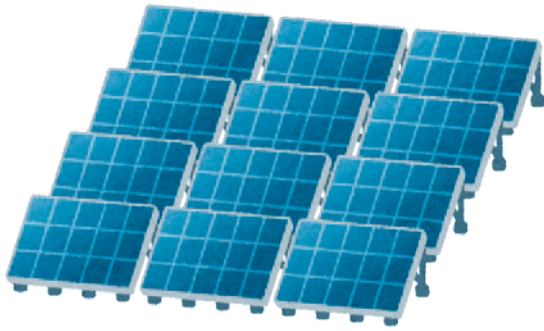
美浜町エネルギービジョン事業の 取り組みが始まる

●平成30年度美浜町一般会計補正予算
(第1号)

【総務費／衛生費】

問 高度化事業の中で公共施設と産業団地の太陽光発電設備委託は高額である。個々に分けず一つで入札させた方が安くできるのでは。

答 産業団地については大規模なものであり、設計できる業者は町内にはなく、実績のある業者に発注することになると思う。美浜創生戦略課が所管で事業を実施していく。



問 国から高額な予算を確保しても県外・町外の大手業者に持っていられるのでは、何のために大きな事業を受けているのか見えない。少しでも地元活用が考えられないのか。

答 町内に必要な技能・技術を持った業者がいれば、地域振興・業者養成から選ばせて頂くが、規模の大きいものについては、地元業者だけでは困難なところもある。できるだけ分割するなど、地元業者が受注できるようにしていきたい。

問 役場庁舎改修事業では、CO2削減のために空調設備更新に大きな付属設備が必要になると想像するが、システムのモデル的なのはないのか。

答 8パターンを想定し検討中であり、一般財源で計上しているが、LEDと空調関係全部を改修すると4億円規模の工事となり、国の補助金を受ける予定である。

問 地域主導型再生可能エネルギー利用促進調査事業でモデル地区3地区を選定して調査を行うが、どういった範囲を調査するのか。また、1件あたり1000万円はかなり高額ではないのか。

答 3地区というのは、1集落単位、あるいはいくつかの集落を合わせるとなると思う。美浜創生戦略課が所管で事業を実施していく。

問 国から高額な予算を確保しても県外・町外の大手業者に持っていられるのでは、何のために大きな事業を受けているのか見えない。少しでも地元活用が考えられないのか。

答 町内に必要な技能・技術を持った業者がいれば、地域振興・業者養成から選ばせて頂くが、規模の大きいものについては、地元業者だけでは困難なところもある。できるだけ分割するなど、地元業者が受注できるようにしていきたい。

問 役場庁舎改修事業では、CO2削減のために空調設備更新に大きな付属設備が必要になると想像するが、システムのモデル的なのはないのか。

答 8パターンを想定し検討中であり、一般財源で計上しているが、LEDと空調関係全部を改修すると4億円規模の工事となり、国の補助金を受ける予定である。

た地域で、取り組みたいところに手を挙げて頂くのを基本に、再生可能エネルギーを活用しながら地域の課題を解決していくことが目的である。発注に当たっては、内容を精査して進めていく。本事業を進める上では、区長等を対象とした説明会を開催し関心を高めていきたい。



役場庁舎も改修

【農林水産業費／商工費】

問 バイオマスは福井県内でもいくつかやっており、良い結果が出ていないと思うが、どのような内容の調査をするのか。

答 施設園芸を推進する中で農業系の残渣といったものがあり、その利活用についての調査で、資源の利用可能性の把握等を進めるものである。



【土木費／教育費】

問 空き家で崩れかけた状態で放置されている地域があるが、条例に基づき強制執行はできないのか。

答 町の補助を活用し、解体するところまでは話を進めている。条例により、危険の生じる恐れのある場合は緊急回避の形で強制的に対処している。

(梅津記)

総務文教
常任委員会
付託案件3件
陳情審査1件

固定資産税・たばこ税等の税条例を一部改正

●美浜町税条例の一部を改正する条例の制定について

〔土地に係る負担調整措置の3年間延長〕

バブル期に各市町で評価水準にバラツキがあったので、平成6年度から地価公示価格の7割評価をする方式を導入し、負担水準の均衡化を図ってきたものを、平成32年度まで延長する措置です。

〔固定資産税の特例措置等〕

新築住宅に係る減額措置の適用期限を2年間(平成32年3月31日まで)延長するなどです。

●美浜町税条例の一部を改正する条例の制定について

個人所得課税の見直し、たばこ税の見直しが主な内容です。過熱式たばこの課税方式が見直され、段階的

に引き上げられます。

●美浜町放課後児童健全育成事業の設備運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について

放課後児童クラブの需要が高まってきており、施設の充実と人員確保の為に資格緩和を目的とした改正です。

以上を協議の結果、承認することによって決定しました。

◎エネルギー基本計画に原子力発電所の新増設・リプレースを明記することを求める意見書の提出に関する陳情

議論の結果採択され、本会議に意見書を提出しました。

(兵庫記)



産業厚生
常任委員会

付託案件3件

楽膳拠点施設がオープン

●専決処分の承認を求めることについて(美浜町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について)

問 国民保険税減額に関する項で「山林所得金額の合計」という内容があるが「山林所得」を有する者は美浜町に居るのか。

答 現在でも「山林所得」がある方はおられる。計算上、総所得金額の中に「山林所得」を含めている。

●美浜町健康楽膳拠点施設の設置及び管理に関する条例の制定について

問 道の駅は、内容的にはどこも極端な差はないが、運営の仕方でも今度の発展に大きな影響が出ると思うが、指定管理者の質をどのように担保するのか。

答 運営上のソフト面等どのように活用するか、実績も含め審査する。効果を高めるため、関係機関との連携は大事と考えている。

問 指定管理者には、薬剤の知恵も必要ではないか。楽膳に関しては県の園芸試験場の連携もされると思うがどこまで考えているのか。

答 それぞれの得意分野を持つ機関と連携する中で、補う形が必要と考

える。

問 施設の愛称をどうするのか。

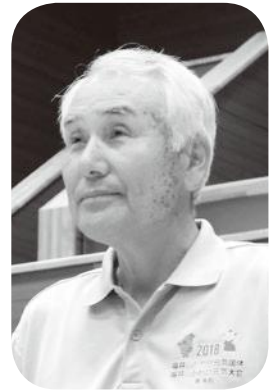
答 オープンまでに間に合うようにスケジュールを考えている。

●美浜町ふるさと水と土保全基金条例を廃止する条例の制定について
質疑はありませんでした。(辻井記)



美浜町健康楽膳拠点施設のパーズ

6月定例会では4人の議員が一般質問に立ち、町行政について、問いただきました。



高橋 修 議員

先を見た人口減少への備えを

問 町の総合振興計画の人口目標は、25年に9400人であるが、当時の人口問題研究所の推計人口は8902人であった。この差498人は改善目標か。

町長 25年の人口を9400人に留めたいという目標である。

企画政策課長 各種の人口対策を進めている。町の人口は、毎年140人ほど減少していたが、16、17年は96人に留まった。

問 18年公表の最新推計によると、45年の人口は5942人に激減する。20年以上先を見据えた議論の場が必要と思うが。

町長 今の振興計画は大変よく検討され、相当の予算を

つぎ込んでいっている。毎年の人口に一喜一憂せず、ある程度のプランで検討していく必要があると思う。

企画政策課長 18年推計は15年の国勢調査に基づいており、直近の改善が反映されていない。また総合振興計画は、あらゆる分野の代表や有識者等の参画を得て策定してきた。5年目の見直し時も、同様に幅広く意見をお聞きして実施する。

意見 人口問題に対する住民の正しい認識の為にも、20年以上先を見据えた議論が必要と思う。是非検討頂きたい。

地域一丸でツーリズム振興を

問 ツーリズム（旅を単なる観光ではなく、魅力的なコンテンツや事業と絡め産業化する活動）という概念を知り大変共感した。

福井新聞の「観光で地域を元気に」という記事にも「地域の文化や生活を有料で体験・体感できる仕組みをつくり、住民が楽

しみながら活躍する」「武器になるのは、すばらしい景観やおいしい料理よりも、地元の人々との交流である」とあった。

また政府は、観光は地方創生の切り札で、16年に2400万人だった訪日外国人旅行者（インバウンド）を、30年に6000万人にする目標を掲げている。

若狭地方そして美浜には、強力なツーリズム振興が不可欠と考

商工観光課長 インバウンドを含め、ツーリズムの振興は不可欠と考えており、体験型観光、教育旅行を取り込んでいる。

問 福井新聞で「日本版DMOの設立を」という嶺北の動きが報道された。ツーリズムの強力な振興には、DMOの存在が必要と思うが、考えを伺いたい。

商工観光課長 まち・ひと・しごと創生総合戦略にも、DMOの必要性が明記されており、人材育成や各種団体の合意形成等、難題ではあるが前向きにやりたい。

問 若狭には、芸能や祭等の貴重なツーリズム資源が多い。大半は神事であるが、これらの存続のためにも、関係者のご理解を得て、開催日を休日等にコーディネートし、ツーリズムの主役の一つになってほしいという希望がある。お考えを伺いたい。

商工観光課長 そうした資源を生かした取り組みは、本当に必要だと思うが、町の考えを押しつけるところではない。今後接点ができれば一緒に検討したい。

問 近江や京都等は、ツーリズムの面で益々発展すると思う。嶺南が結束し、古都との関係を生かした連携をすべきと思うが。

商工観光課長 多様なコンテンツ開発、二次交通の充実等、広域的な取り組みが益々必要と考えている。現在、県と嶺南6市町が連携し、旧丹後街道歩きコースを発信している。嶺南地方が本場に一つのエリアとなつて、京都、滋賀等と連携を深めたい。

質問、返答については質問者の
文責で掲載しています。



河本 猛 議員

美浜町エネルギービジョ ン事業化計画について

問 エネルギービジョン事業化計画の中で、15の幅広いプロジェクトが示されている。この事業計画を実現していくことで、他の市町をリードする自信と覚悟があるのか。

エネルギー政策課長 町が目的としている地域の活性化、発展につなげていけるように頑張りたい。

町のエネルギービジョンは、行政、民間がともに共有、実行していく計画であり、今後さらなる機運の醸成などを図っていく必要がある。

問 再エネの研究をいかに誘致して将来の事業展開に

つなげるかというのは、企業誘致、産業育成、町の経済的土台を整備する上で重要である。

海洋ごみは世界中の海や海岸へ広がり、地球規模の環境問題である。この海洋ごみを処理して、資源に転換し、エネルギーを生み出すことができれば、大きな社会貢献になる。

研究開発、環境景観の改善、エネルギー転換による売却益、地域雇用などに結びつけていくためにエネルギーの構造高度化・転換理解促進事業補助金を使用することを検討してはどうか。

住民環境課長 海洋ゴミの回収方法や分別など、課題が多くあることから、この補助金の活用は難しい。

発電施設を持たせるためには、最低でも毎日80トンほどの可燃ごみの量が必要と言われている。現在、回収処理している美浜町の海岸漂着物は、年間30トン程度である。

町全体で排出される可燃ごみは、年間2900トン、1日

平均8トンほどの量なので、規模的にも不可能であると考えている。

可燃ごみの処理については、平成34年度をめどに敦賀市と共同で処理を行う計画を進めている。今後新たな処理施設の建設に当たり、発電施設の導入の可否について検討していく。

意見 発電機能を持たせることができるのであれば、焼却場は美浜に持ってきて、最終的な処分地を敦賀にお願いしてもよいのではないか。逆の場合は、何の利点もない。

財政調整基金について

問 福井市の今年度予算が約12億円の財源不足になる

と報道されている。総務省の指針では、財政調整基金の積立額は標準財政規模の10%が目安とされているが、美浜町の積立額は何%か。

不要不急の公共事業で財政調整

基金に不安はないか。自然災害にもしっかり対応ができる余力はあるのか。

総務課長 当町の標準財政規模は、平成28年度の決算で38億6244万4千円。それに対し、財政調整基金の残高が、平成29年度末で9億2715万2千円の見込みとなっており、財政調整基金の割合は24.0%となる。自然災害が発生して、財源が不足する場合は、この財政調整基金を充てる。震災直後の緊急的な対策、支援などについて十分対応できると考えている。

意見 福井市の財政赤字というのは、議員の職にあるものとして他人事とは思えない。特に政治離れや低投票率が続く中、政治の怠慢というのは最悪の形で住民にはね返ってくる。行政と議会の立場は違うが、他の市町の失敗を教訓にしながら、お互いの職責を果たすことが「住民福祉の向上」につながると考える。

6月定例会では4人の議員が一般質問に立ち、町行政について、問いただきました。



松下 照幸 議員

再稼働について

問 関西電力は、美浜3号機に総額2千億円超を投じて再稼働を目指している。電力自由化の元で熾烈な競争を迫られ、強行運転へ向かう危険性が高まる。

町長 安全を確認しながら原子力との共生を図っていきたい。再稼働は、関電の安全対策、町議会、町民の意見を広く聞いて判断したい。

問 再稼働をすると、大量の使用済み燃料が発生する。その処理について、長期にわたる安全な保管方法は示されていない。10年以上とされる使用済み燃料保管。国が示している地下埋設処分管理期間は数百年。地下深くに埋めて、捨てる

に等しい計画。私たちが今使うエネルギーのために、10万年先の子孫にまで使用済み燃料(核のごみ)の管理を強要する。美浜3号機の再稼働は、倫理的に見ても許されるものではない。

町長 使用済み燃料は再処理して使うことが国の方針。使用済み燃料を地下に埋めてというのは、方法としては考えられていたが、そういう方向に向かっていていない。

廃炉について

問 もんじゅは廃炉。再処理工場も動きそうにない。再稼働すれば使用済み燃料は溜まり続け、「核のごみ」になる。再稼働は核のごみを生み出し続ける。

美浜1・2号機に冷却設備配管のチタン化計画を採用しなかった時点で、廃炉が決まっていた。それを理解できず、国や県、美浜町が、未だに具体的方法を示していない。解体廃棄物

L1〜L3については、ほとんど未解決である。

町長 放射性廃棄物の処理・処分のについては、喫緊の課題。処分場も未確定。L1解体廃棄物の処分は規制規準さえ定められていない。非常に問題。

意見 解体廃棄物の処分方法を決めずに原発を運転することが無責任。解体せずに20年間密閉管理をするよう提案する。その後に解体を始めれば、作業員の被曝が格段に減る。

避難訓練について

問 3号機が再稼働すると避難訓練が計画される。職員は事故時に、家族の避難を優先せざるを得ない事態に迫られる。事故時の避難誘導を職員に強制できる法的根拠はあるのか。職員が放射線により健康を害した場合、補償は整備されているか。

訓練段階で解決すべき課題は多くある。町長はなぜ3号機の再

稼働を急ぐのか。

町長 再稼働を急ぐというようなことはしない。

災害時に住民等を安全に避難させる責任は、行政として最重要。職員の防災業務従事の法的根拠は、原子力災害対策特別措置法、地方公務員法において記載され、上司の命令に従わなければならない。

職務中に受けた被害に関しては、公務災害補償制度が適用される。地元自治体は避難後の生活の面倒も見ていく義務がある。

意見 元新潟県知事の泉田氏が「福島県へ職員を向けさせるとき、法的根拠はあるのか、その職員が病気になった場合にどう補償するのか」を悩んでいた(月刊誌「世界」)。町長が幾つかの法的根拠を示したが、元知事は「根拠が弱い」と判断したように思える。法的な問題、補償の問題をきめ細かく文字化しておかないと、職員も心配ではなからうかと思う。

質問、返答については質問者の
文責で掲載しています。



川畑 忠之 議員

美浜町観光振興計画の実績と成果について

問 平成26年度から平成35年度までの10年間に、美浜町観光振興計画が策定された。

この計画は、美浜町総合振興計画の観光部門として、魅力ある観光づくりを推進し、地域経済の活性化に資することを目指すもので、今年で5年が経つが、この必要性や今までの実績と成果についてお聞きする。

町長 美浜町では、四季型観光を
目指しながら、若狭美浜は

あとふる体験の充実、定期的な集客が見込めるスポーツ合宿等の誘致促進、名物料理の開発に努めてきたが、観光入込客数が減少傾向にある。よって、観光を取り巻く環境や多様化する観光ニーズに対応できるよう、町

内外の情勢や全国の観光動向の変化を的確に把握し、観光戦略として美浜町観光振興計画を策定した。

商工観光課長 新たな観光振興のために、
地域ごとに三方五湖ゾー

ン、新庄山里ゾーンの3つのゾーンに分け、それぞれの特色ある取り組みを設定して進めている。

本年度開催の国体や平成34年度の北陸新幹線敦賀駅開業が大きな観光の誘客チャンスと捉えており、それまでに、スマート・コンパクトシティや園芸拠点施設のレストランの開設、遊覧船の再稼働、また美浜町レークセンターの再整備と関連づけて、観光、飲食、物販、観光案内機能を持つ総合拠点施設の再整備を図ることが重要と考えている。

福井しあわせ元気国体について

○ボート競技の会場応援席の整備について

問 ボート競技の時に、運動公園の湖岸道路上に各チー

ムがテントを張って応援観戦をしているが狭くないか。遊歩道は通行だけにして、テントは、フェンスから5mほど土手を削り、フェンスを陸上競技場多目的広場の方に下げ、更地を作って選手や応援者の観戦場所にしてはどうか。各チームの応援と、昼食場所として確保すれば、幅広く利用できると思うが。

美浜町創生戦略課長 ボート競技では約2000人の参加者が集落や団体に、また企業ごとに湖岸道路場にテントを並べ、バーベキュー等を楽しみながら、他のチームと交流を深めている大会である。今回の福井国体開催を契機に、護岸道路沿いの土手に、観覧席の設置を計画している。約300人が座れる観覧席となっているので、現在では拡幅計画は必要ないと考えている。

○全国障害者スポーツ大会のゲートボール誘致について

問 美浜町に全国障害者スポーツ大会のゲートボール競技が誘致されたが、このゲート

ボール競技の成功に向けた取り組みは。

美浜町創生戦略課長 このゲートボール競技は、美浜町ゲートボール協会の会員皆様の熱心な誘致活動により、本町で開催することになった。今後はこれを契機に、全国障害者スポーツ大会の受け入れ態勢を整えて、この大会成功に向けて取り組んでいきたい。

○西郷健康ひろば内の道路整備について

問 町道の入口から西郷健康ひろば屋内運動場までは、砂

利道であり、建物の入口の前は、土のままであり、雨が降ったら泥んこになる。左側の浜に抜ける道の駐車場は、土のままであるため、ここも雨が降ると、泥んこになる。国体までにおもてなしの舗装は出来ないのか。

教育政策課長 町道から西郷健康屋内ひろば施設に至る道路は、全国障害者スポーツ大会までに

舗装する。浜に抜ける道の駐車場は、屋内ゲートボール場と屋外との接点に当たるスペースで、歩行者との交錯により危険が伴うので、舗装の計画はない。

現地視察

6月15日、定例会会期中に、新庄地区の「嶺南変電所」と、県のふるさと創造プロジェクトの取り組みで3年計画で完成した新庄山里ゾーンの「自然体験館鹿野苑(ロクヤオン)」、「カフェ・MIROKU」、「獣肉加工施設 BON1029」を視察しました。

嶺南変電所は、関西電力㈱と北陸電力㈱で発電した電気を融合して、



変電所職員から説明を受ける

嶺南地方と滋賀県および京阪神方面に安定供給する基地です。嶺南変電所では、「現在、10数名で運転保守管理を行っている」「変電所の全面改良工事が近く完了し、施設の遠隔操作が可能となり無人化となる」等の説明を受けました。その後、高台から変電所を眺めましたが、前回の視察とは様変わりした風景でした。

続いて、自然を満喫できる山里体験施設を視察しました。

松屋集落の急な坂道にきれいな石垣が積み、その先に藁葺き屋根の古民家を改装したトタン葺きの三角建家が見えます。こちらが宿泊可能な自然体験館「鹿野苑(ロクヤオン)」で、古民家のおもむきは残し、生活環境の水回りは最新式を取入れ、グリーンツーリズムと山村の暮らしを同時に体験できる施設でした。

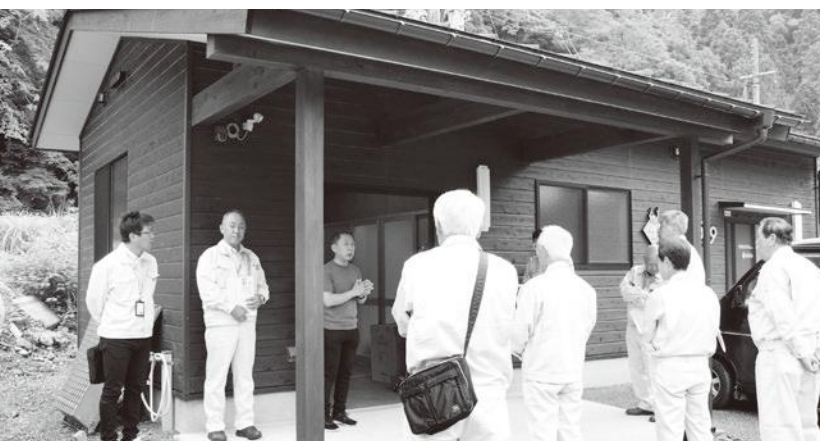
少し歩くと、石の紅葉神(モミジん)のオブジェ看板があるモミジんパークがあります。奥にあるカフェ・MIROKUは、滋賀県境のトレイルコースへの道沿いにもあり、山歩きの休憩時に、本格的なコーヒーやランチを楽しむことができます。スペースとなっていました。



山村の暮らし体験 と 山中でリラックスタイム

最後は、食肉加工施設「BON1029」を視察しました。数字の1029は、獣肉の語呂合わせだそうです。小さな施設ですが、地元で捕れた猪や鹿等を新鮮な内に加工出来るのが売りで、真空パックや冷凍保存加工もできるそうです。

今回の視察は、美浜町の山里の姿と地域の郷土愛も見ることが出来ました。(辻井記)



新鮮加工が売りの獣肉加工施設

地域づくり拠点化 整備特別委員会

去る6月27日に、地域づくり拠点整備特別委員会を開催し、次のことについて協議しました。(本委員会は、主に美浜駅前に建設予定の「道の駅」整備について検討するもので、委員7名で構成されています)

●PPP/PPF事業による地域 づくり拠点化施設整備について

今回の道の駅整備については、従来の公設公営ではなく、PFI事業を導入します。これは、民間の資金と経営能力・技術力(ノウハウ)を活用するもので、設計、建設、維持管理・運営を一括で発注し安くて質の良い公共サービスを目指すとしています。さらに、総事業費が従来方式に比べ10%程度削減できると見込んでいます。

今後の予定は、7月中旬に民間提案

の公募、8月に提案事業の実施可能性を検討、10月に実施方針の策定・公表、12月に民間事業者の選定を行うとしており、2021年度オープンを目指しています。

委員からは、「近隣にはすでに民間の道の駅のような施設があるが、この辺と競合するのではないか。同じような道の駅になるのではないか」との意見があり、これに対し、「道の駅を観光拠点としてだけでなく、町民が集まる重要な拠点と位置づけ、ガソリンスタンドや子育て支援施設、防災拠点としても活用する。また、よく似た施設が集まることによる相乗効果の可能性もある」との回答がありました。

また、道の駅を駅周辺に決めた経緯として、町民アンケートを実施した結果、「新たな交流拠点が必要」との回答が76%、そのうち拠点として「美浜駅周辺や役場付近がふさわしい」と考える回答が54%であったことを基にしました。(竹仲記)

原子力発電所特別委員会

4月23日に、原子力発電所特別委員会を開催しました。当日は、関西電力株式会社から宮越所長ほか5名、国立研究開発法人日本原子力開発機構から山口副本部長ほか3名、また、理事者側より町長、エネルギー政策課長及び防災・原子力対策室長の出席を求めました。

関西電力株式会社からは、美浜・高浜・大飯、各発電所の状況、美浜1・2号機の廃止措置の状況(当面3年間の工場工程)、美浜3号機の主な安全性向上対策工事の実施状況等について説明を受けました。質疑では、「解体廃棄物の取り扱い等、安全第一に作業を進めてほしい」と要請しました。

日本原子力開発機構からは、組織体制について、「もんじゅ」廃止措置の全体工程・第1段階(「もんじゅ」燃料体取り出し期間)の工程、「もんじゅ」燃料体取り出し体制の整備と教

育訓練の実施状況、「もんじゅ」核燃料物質の譲渡及び放射性廃棄物の廃棄等について説明を受けました。

質疑では、「3月の集中警報監視装置の警報発報もあり、今後しっかりした工程を立て安全最優先で物事にあたりたい。また、ナトリウム・使用済み燃料の処理処分の技術的な検討については、美浜町と議会にしっかりと説明を果たしたい」と回答を受けました。

6月12日には、関西電力美浜発電所内の廃止措置工事状況(2号機タービン建屋内)、安全性向上対策工事状況(3号機海水ポンプエリア周辺)について現地視察しました。

1・2号機では1次冷却材系統除染・残存放射能調査・タービン建屋内機器等(2次系)の解体工事、3号機では使用済み燃料ピットラック取替工事・使用済み燃料ピット補強工事・火災防護対策工事等が行われています。毎日約2500名の作業員が従事されており、長期にわたる工事が安全に進むことを望みます。

(藤本記)

議会広報特別委員会

次回34号「議会だより」の編集を検討

みはま「議会だより」は、定例会の翌月に定例会の内容をメインにして年4回の定期発行をしています。その都度、議会広報特別委員会では編集会議を持って紙面の内容を検討し、割付け（レイアウト）、原稿の執筆分担等を定め、配



議会広報誌「みはま議会だより」

布までの工程を決めています。

今回の編集会議では、前回の編集会議で話し合った表紙の「祭シリーズ」の採用と議員全員の執筆を再確認しました。また、紙面の活字の大きさを大きめに統一するため、記事依頼の文字数の周知も行うことにしました。

7月2日には、県の町村議会議長会主催の町議会広報研修があるので、これからもより親しみやすい「議会だより」が出来るよう、勉強してこようと思います。（寺田記）

町議会広報特別委員会

「議会が見える」広報誌を目指して 広報研修会

7月2日に、県町村議会議長会主催の町議会広報研修会が福井県自治会館で開催されました。講師は、5年振りにお越しの芳野正明氏（広報コンサルタント）で、議会広報誌編集に関するレクチャーを受けました。

講義の前半は、「いかに読者に広



最前列で熱心に講義を受ける

報誌を読ませるか」をテーマに、コンクールにおける優秀議会だよりの紙面を例に、紙面づくりのポイントを具体的に教示頂きました。

後半は、各町議会発行の「議会だより」についてクリニックを受けました。クリニックでは、事前に送付した各々の議会だよりを用いて、ページごとに評価して頂きました。読者に興味を与え、読みたい心情をそそるような紙面づくりのための「つかみ」や「特化したポイント」について、豊かな経験と鋭い視線で分かり易く解説し

て頂きました。その中で、見出し・小見出しの必要性、写真の大きさとバランス、写真説明（キャプション）の付け方、さらに町民参加の紙面づくり等のアドバイスもありました。

講義において、特に気になった点は次のとおりです。

①「住民に見える議会、住民の意見を聞く議会」を広報活動の基本にする。

②「レイアウトと写真の扱い」はイメージを伝える上で、言葉（文字）よりも読者を引き付ける。

③「記事は正確・簡素・平易」に書く。

④「討論賛否、態度の公表」住民にとって、何故賛成か、反対なのかよく分かるように記載する。

今回の研修を終えて、議会広報活動のあり方や、広報誌編集のポイント、あるいは、専門的・技術的な難易度等を含め、非常に奥深さを感じました。

これからも、研修で得た知識や技術を活用し、「議会だより」の更なる向上と議会の発展に向けて、町民の皆さまとともに力を合わせて頑張っていきたいと思えます。

（寺田記）

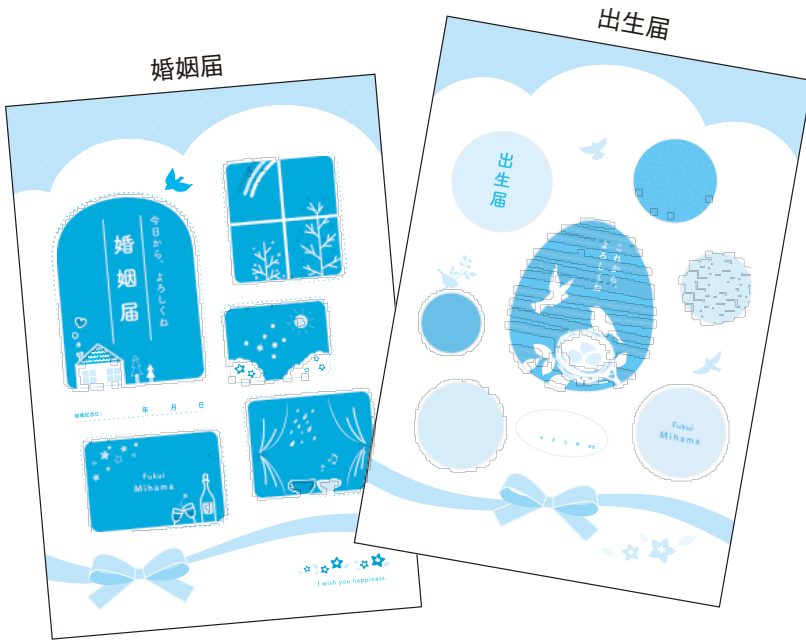
全員協議会

よりプラスとなる
取り組みがスタート

去る6月18日に全員協議会が行われ、理事者側より3つの案件が提出され協議しました。

①オリジナル婚姻届・出生届について

若手職員の提案で出生届、婚姻届の用紙に表紙を付けました。この台紙の内側には水晶浜の写真が印刷され、表紙や裏表紙には結婚記念日、赤ちゃんの名前、成長の記録などを書き込むことができますようにしています。これを



オリジナル婚姻届・出生届の台紙

有償で販売するというものです。

議員からは、「祝福、記念の思いで渡されるのであれば無料にすべきではないか」「製作に費用がかかっていることから、受益者負担として一定のお金を頂いても良いのではないか」などの意見がありました。結果、町は7月2日から一部500円で

販売することを決めました。

②げんげん歩^ぶ楽^ら寿^す(タニタ式健康プログラム)について

「これまでの『げんげん運動』の継続に加え、食生活のさらなる強化と日常生活に手軽な運動をプラスする『げんげん歩楽寿(プラス)』を町の健康づくり運動として強化・推進するものである」「本事業では、タニタの協力のもと、町民100人を対象に活動量計を付けてもらい運動習慣の確立に務める。議員にもこの活動量計を付けてもらい健康管理モニターになっていたきたい」などの説明がなされました。

議員からは、「日常生活に欠かせない味噌汁をあまりに悪者扱いをしているのではないか」「もっと違う観点から『げんげん運動』を進めるべきだ」等の意見がありました。



成果を確認する活動量計

③第3次美浜町男女共同参画推進計画について

「平成15年、平成25年とこの推進計画を策定し取り組んできた。平成30年から5年間の新たな第3次推進計画を策定し、継続して推進していくものである」との説明を受けました。
(仲寫記)

敦賀・美方消防組合議会

平成30年敦賀美方消防組合

消防大会

5月27日、敦賀市内において消防大会が実施され、美浜町議会から議長及び消防組合議会議員3名が参加しました。

当日は、敦賀市松原公園内において消防関係殉職者慰霊祭が行われ、その後、敦賀美方消防組合の消防管理者4人、消防職員92人、消防団員199人の参加のもと、車両33台による一斉放水。敦賀市、美浜町、若狭町の各消防団による分列行進並びに観閲式を敦賀市内で行いました。

また、表彰式では、きらめきみなと館において、消防職員及び消防団員138名と3消防分団部が受賞されました。最後に、消防職員及び消防団員の志気の高揚とあわせて住民の防火意識の向上を図ることを確認して閉会しました。

第20回美浜消防団 小型ポンプ操法大会

6月24日、美浜町消防署訓練場において、美浜町の各地区消防団11チームが参加し、操法技術の訓練の成果を披露しました。

当日、美浜町議会からは、議長及び消防組合議会議員4名が参加しました。

この大会は、小型動力ポンプの基本操作を実施することにより、配備機械器具操作の習熟を図り、もって災害発生時に活動できる技術を身につけ、効果的な消防活動の充実発展を目的とするもので、参加チームの日々の訓練が大変すばらしいものだと確認できました。優勝は、第2分団第7部の山上地区でした。

この操法技術の習得に、日々励んでおられる消防団員の努力に敬意と感謝を申し上げ、災害に強い美浜町に、安全で安心な町づくりを、尽力していただく確認をして閉会しました。

(川畑記)

県道佐田竹波敦賀線・ 竹波立石縄間線道路 整備促進期成同盟会

去る5月31日、敦賀市役所にて「県道佐田竹波敦賀線・竹波立石縄間線道路整備促進期成同盟会」の総会が開催されました。

第一部総会議事として、平成29年度事業報告及び決算、並びに平成30年度事業計画及び予算が審議され承認されました。

第二部意見交換会においては、「敦



敦賀半島の道路整備計画

賀半島における県道整備の状況等について」と題して、敦賀土木事務所より、「主要地方道 佐田竹波敦賀線、及び「一般県道 竹波立石縄間線」の整備状況の説明があり、特に竹波立石縄間線の縄間沓間等の計画が具体化していない区間について、地元住民代表や地元議員より、厳しい質疑と強い要請がありました。

敦賀美浜地域開発協議会

引き続き、同会場において「敦賀美浜地域開発協議会」の総会が開催され、平成29年度事業報告及び決算、並びに平成30年度事業計画及び予算が審議され承認されました。

平成30年度の事業計画は、(1)道路、交通網の整備促進の請願、要望(2)広域的なまちづくり等に関する調査、研究、(3)両市町に関連する事項の目的達成に必要な活動です。

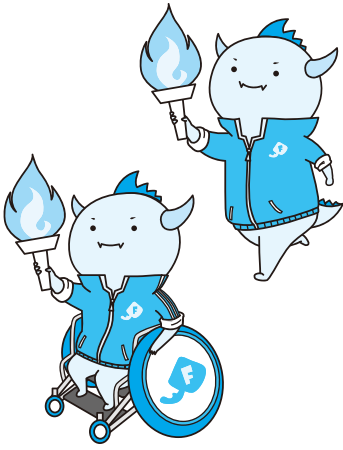
(高橋記)

福井国体に向けた取り組み

町民みんなで歓迎とおもてなしを！
国体まであと70日

まだまだ先と思っていた福井しあわせ元気国体も、開会まで2ヶ月余りとなりました。

実行委員会では、新しい大会役員のもと、大会成功に向けた取り組みが最終段階を迎えています。開会式は9月29日に開催され、県内17市町から集火された火で炬火（きよか）ピックは聖火）点火式が行われます。美浜町では、木製の火おこし器を用いた採火イベントが、美浜・五木ひろしまラソンの会場や町内の小学校で行われました。集まった火は、



国体歓迎のひな壇

8月11日の夏フェスタでの集火イベントにて「美浜の火」となります。町内では、花いっぱい運動も広がり、プランターのひな壇や「ようこそ美浜町へ」の看板も目に付き、歓迎ムードも高まってきました。

あと2ヶ月と迫った福井国体の成功に向けて、美浜町民の郷土愛とおもてなしの気持ちを持って一つでも国体に関われば、良い思い出や記念になると思います。

みんなで国体を盛り上げましょう。

(北村記)

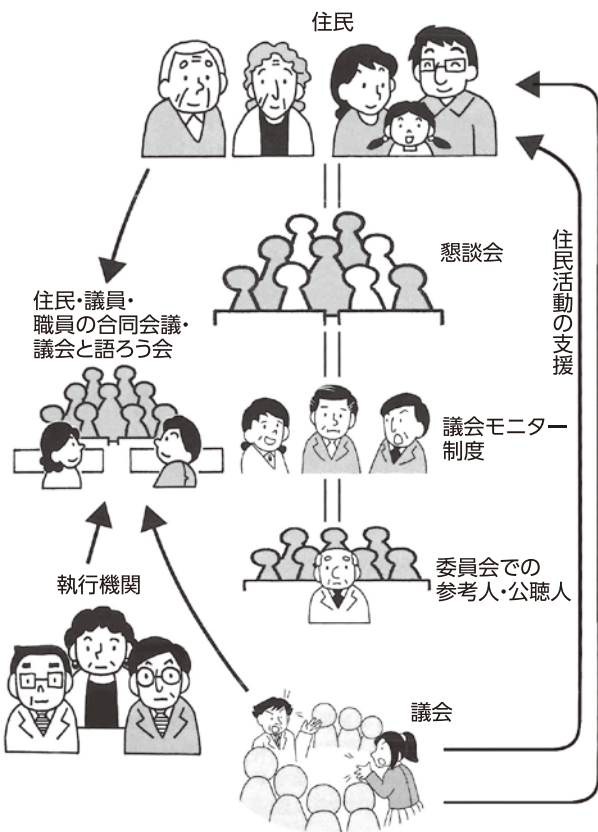
知っ得議会議会シリーズ⑨

「住民参加を積極的に進める議会、住民と協働する議会」

議会に住民が参加する制度は、自治法上も認められています。従来は、請願（陳情は自治法ではないが一般に認められている）、委員会の公聴会・選挙人制度しか行われてきませんでした。現在は、イラストにあるように大きく進展しています。

美浜町議会でも、議会と語ろう会の開催や行政事業の展開には、関連委員会への議会参加や特別委員会を設置して、住民の意見収集に取組んでいます。定例会の常任委員会や本議会の傍聴も一人からでも出来ますのでぜひご参加下さい。

(議会広報特別委員会)



第31回 美浜町民レガッタ

7月1日 議会議員の部は7クルーで決戦

朝5時の時点では無風状態だった会場が、昼にかけて徐々に強風変わってきました・・・。

議会議員の部のレースは1時間余り遅れてスタートしました。

今年も、例年参加している、津幡町議会・若狭町議会・おおい町議会、さらに初参加で大津市議会スポーツ議員団が2クルー、そして美浜町議会2クルーの合計7クルーで白熱したレースを展開しました。

結果は、【優勝】大津市議会「ゆりかもめ」、【準優勝】津幡町議会「源平」、【3位】美浜町議会「三方五湖」、【4位】若狭町議会、【5位】美浜町議会「水晶浜」



熱戦を繰り広げるクルー

【6位】大津市議会「叡山すみれ」、【7位】おおい町議会 以上です。各クルーともご苦労様でした。

(山口記)



議会議員の部全員で記念撮影

お詫びと訂正

前回の議会だより33号の河本猛議員の一般質問(10項)で、2段目の21行目からが町長の答弁となります。訂正をお願いします。お詫び申し上げます。

編集後記

平成30年第3回美浜町議会定例会は、活発な質疑を行い、6月20日無事会期を終えました。いよいよ新年度予算が、一つ一つ執行されます。

議会活動、各種行事も目白押しです。梅雨真最中、町民の皆様共々、健康にはお互い十分気をつけましょう。

ただ今、季節感漂う「耳川のayu」の動向が少々気になります。福井しあわせ元気国体・障害者スポーツ大会開催まで、元気な「耳川のayu」を見たいものです。

(寺田記)



美浜町議会広報特別委員会

- 【委員長】 辻井 雅之
- 【副委員長】 寺田 順一
- 【委員】 竹仲 良廣・兵庫 賢一
- 山口 和治・崎元 良栄
- 高橋 修